

令和5年度 幼児教育研修（年齢別担任研修3歳児・第3回）  
 「子どもとともに『おもしろがる』保育にむけて」  
 日時：令和5年11月28日（火）15：00～17：00  
 会場：竹の塚地域学習センター  
 講師：東洋英和女学院大学 准教授 塩崎 美穂 氏



動画（事例）から子どもの世界（おもしろさ）や友達とのつながりについて学びました。

## 事例 1 ～かりんを取りたい!～



### かりんの実を見つけた

- ・何としても取りたいT児。
- ・木を揺らしてみるのが落ちてこない。
- ・長いスコップを手に、ジャンプをしてみるが届かない。
- ・虫取り網を持ってジャンプをしてみるが届かない。



### タイヤを運んできた

- ・届かないことがわかると、「こんな時はタイヤだ!」と気付く。
- ・1本運んで乗ってみる。
- ・2本重ねて乗ってみる。
- ・タイヤの内側に立って手を伸ばすが、膝は伸ばせない。



### 思考錯誤を繰り返す

- ・3本目を重ねてみるが、高く立てない。
- ・友達が集まって来て、それぞれチャレンジするが届かない。
- ・T児は、かりんの木につかまらなから網を動かすが、タイヤがずれて滑り落ちる。



- ・一人一人違う遊びをしているように見えるが、気の合う友達と二人で一緒になって遊ぶことが楽しい年齢である。
- ・「かりんを取る」こと以外でも楽しいと感じている。
- ・時々、近くにいる保育者に視線を送る。「取って」と頼めばいいのだが、言い出さない。
- ・タイヤを3本重ねる挑戦は、普段の保育が垣間見える。

「自信满满」

## \* 誇りをもつってどういうこと? \*

「できないことはない」

揺れ動く感情

「そんなことできない」

かりんの実  
 僕が取るんだ。  
 3段重ねたタイヤ  
 に乗れば大丈夫!



かりんの実を  
 取りたい。  
 だけど、タイヤに  
 乗るのは怖い。

## 事例 2

# ～怪獣みたい!～

園庭にタイヤを山のように重ねて置いておくと、それに気付いた3歳児。

「これは何だ〜!」「かいじゅうだ〜!」と、タイヤの上に乗って遊び始めた。

様子を見ていた他の子どもたちも上り始める。

タイヤのバランスの悪さを面白がっている子、足場を確認しながら慎重に上る子、思い思いに楽しんでいる。

そんな中、**タイヤを運んで来ようとするAちゃん。**

一人では重く動かすのに大変そうであるが、**転びそうになりながらも頑張っている。**

Aちゃんが**大変そうだと気が付いた友達**は、**タイヤを運ぶのを手伝おうとする。**



一人で運びたかったAちゃんは、手伝いにきてくれた**友達に首を振り**、**タイヤを運ばれないように、取り返そうとするが...**

友達にタイヤを持っていかれてしまったAちゃんは、**ちょっとだけバタバタ**していたが、**すぐに気持ちを切り替えて、タイヤの山に走って行く。**



一人で  
運びたかった〜

えっ?  
手伝ったら  
ダメだった?



### 保育者の見取りポイント

- ★ Aちゃんにとって、一人でタイヤを運ぶことにどんな意味があるのか。
- ★ 手伝ってあげたはずなのに、「えっ? ダメだった?」と一瞬動きが止まった男児にとってはどんな意味をもつのか。
- ★ 一人でタイヤを運ぼうと思ったけど、まあいいか。と気持ちを切り替えたAちゃんの心の育ちにどんな意味があるのか。

を考えることが大切である。

### 3歳児の特徴

「相手が見ている世界」が  
「自分にも見える」

「へえ、それもいいね。」とわりあい簡単にこだわりなく途中で意見を変える。

自分の中の「こだわり」が  
友達の「行動」に魅了される

自分の「一押しポイント」を「動き」  
「行動」で表現する姿がある。



### 研修生の報告書より

かりんを取ろうとしている男児の“探究している姿”“自分なりに考えている姿”は、日々の遊びの中で、“自分でした方が楽しい”“自分のことを受け止めてくれる人がいる”ということを感じているからこそ見られる姿であると知った。

3歳児は、友達と一緒に遊ぶことが増え、言葉を交わさなくても笑い合ったり、真似し合ったり姿が見られる。それは、“一体感を楽しんでいる”と知り納得できた。また、友達と一体感を感じられるようになると次第に自己コントロールにつながることを学んだ。